



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## イエスの言葉

『体は殺しても、魂を殺すことのでき  
ない者どもを恐れるな』

聖書(マタイ福音書 10章 28節)

牧師 河合裕志

これは強い言葉、こわいような言葉。イエスは「体は殺しても」とサラリと言うけれど体が殺されれば一巻の終りじゃないの。殺されるなんて真っ平。しかしイエスは平気みたい。所詮彼らは体を殺すにとどまる。それ以上は出来ない。魂を殺すことまでは不可能。だから彼らを恐れることはないんだよ、とイエスは言っている。魂というものがあるんだ、とイエスは主張。これは体とは別個の扱い。この存在が信じられれば強くなれるかも。体の死を受容できるかも。恐れなく。

このイエスの言葉は弟子達に殉教の死に際してこれを励ますために言われたもののように。覚悟を促す言葉。2千年の昔、そしてその後も迫害というものがあつた。①ユダヤ教側からの迫害。これはクリスチャンは偽りのメシア(救世主)を信じ宣伝しているとして迫害された。ユダヤ教の皆さんはダビデ王のような力あるメシアの到来を望んでいたのに十字架につけられ殺された無力なイエスをメシアとするクリスチャンに我慢ならなかった。

②ローマ帝国側からの迫害。クリスチャン達はイエスの十字架と復活によって人類に罪の赦しと永遠の命がもたらされたと思

じイエスにのみ礼拝を捧げようとした。この点皇帝礼拝を推し進めるローマ政府とぶつかり迫害を受けるようになる。

日本でも迫害があつた。キリスト教国になるのを恐れた、封建体制がくずれのを恐れた、一夫一婦の教えは都合が悪い…いろんな理由があつた。

このようにして古今東西多くの迫害がなされ殉教の血が流された。この人々はどこまでも己れの信じる信仰を棄てなかった。勿論死ぬのがこわくて棄てる者も多かつたろう。でも全員が棄てなかったのもこの信仰は今日まで伝えられている。そして現在では「信教の自由は何人に対してもこれを保障する」(日本国憲法第20条)とうたわれている。これは誠に感謝。殉教者に感謝。

それにしてもこの人々は強かつた。肉体を痛めつけ死に至らせる者を恐れなかったのだから。そこにはこのイエスの言葉が覚えられていたのだろう。魂までは殺せないよ。殺すことの出来ない魂は天国に行くということなのだろう。これを信じて死んでいった。そして今この人々は天国で安らいでいるのだろう

私達いつかは肉体は滅びるけれど魂は天国に行くと思われれば幸いというもの。イエスはそれを望んでいる。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時